

ウィンブルドン観戦（その3）

セネガルでの中村さんの妹さんとプロテニスプレーヤーを目指す少年との出会いから始まった今回の心温まるエピソードとウィンブルドンについての最新の現地情報についての名ク会員中村光治さんからの寄稿、その3です。

ウィンブルドン旅行顛末記

～その3（我々のウィンブルドン観戦・体験レポート）～

中村光治

7月4日（金）は最初にミュージアム見学をし、ショップに入りお土産を買いました。そのあとは会場全体を把握すべくあちこち歩き周りながら14番コートでは台湾のSu-Wei Hsieh シェ・スーウェイさんのダブルス2回戦を見学しました。彼女のペアは結果的には準優勝でした。その後、2番コートの南側にある巨大スクリーンでの試合映像を見ながらピザと生ビール（何と9ポンド！）で一休みし、もう少しあちこちのコートで迫力ある試合を見学したあと、サウスフィールド駅前のお店でエビのアヒージョやフライドポテトを肴にしてのどを潤してホテルに帰りました。



7月5日（土）はまずウィンブルドン在住の湯藤寿人（ゆとうひさと）（今回のウィンブルドン旅行のキーマン）さんの案内で THE BRENTHAM CLUB（ザ ブレンサム クラブ）という月桂樹のロゴでもおなじみのフレッド・ペリーが在籍して腕を磨いたというテニスクラブを案内していただきました。クラブ内には彼の使用したラケットなども展示されており、何よりも驚かされたことは彼のマーク入りのハードコートが一面用意されていることでした。

毎年イギリスではジュニアの全国大会の決勝戦のみはこのコートで行われ You Tube で全国放送されるとのことで多くのジュニアの目標にもなっていました。



次に、Ealing Lawn Tennis Club（イーリングローン テニス クラブ）という湯藤さんの息子さん兄弟のホームグラウンドに案内して貰いました。このクラブは 134 年の歴史を誇る由緒あるクラブですが、ここでは天然芝でのテニスを体験させていただきました。



その後、ウィンブルドンのご自宅へ招待いただき夕食をごちそうになったのですが、途中アンディー・マレーやジャック・ドレーパー、エマ・ラドカヌらがトレーニングを積んでいるナショナル テニス センターにも立ち寄って見学させていただきました。



7 月 6 日(日)にはホテルまでお迎えに来ていただき、今度のご家族と一緒にテニスを観戦させていただきました。最初の指定席での観戦は湯藤兄弟が地元選手の試合を観たいとのことで、我々は 14 番コートで Rinki Hijikata (リンキ・ヒジカタ) さんのダブルス 3 回戦を目の前で見学しました。彼のご両親は日本人ですが、残念ながらテニス環境の良いオーストラリア国籍を選択されてしまいました。彼には土方凛輝というれっきとした漢字名もあり、先の全豪ダブルスでも WC から優勝された売り出し中のプレーヤーで、今回も 3 試合マッチポイントを凌いで決勝戦まで勝ち上がり、惜しくも準優勝でしたが、恐ろしく動きが早く、観戦した我々もダブルスの醍醐味を満喫することができましたし、ちゃんとサインもしてもらいました。(笑)

それ以外には、1 番コートでビッグサーバーの Taylor Fritz テイラー・フリッツ(米)のシングルスを観ましたが、彼は準決勝戦まで勝ち上がっていました。また 3 番コートでは Katerina Siniakova カテリーナ・シニアコバ(CZE)&Taylor Townsend テイラー・タウンゼンド (USA)の女子ダブルス第一シード



の試合を観戦しましたが、このペアは準決勝戦でスー・ウェイさんのペアに敗れていました。また8番コートでは沢代榎音（さわしろかのん）さん（16歳）が18歳以下の女子ガールズシングルスで予選を勝ち上がって本選1回戦で地元のWCで出場したBrooke Black ブローク・ブラック選手を相手に26-64、62と逆転勝ちする場面にも立ち会うことができました。シナー、アルカラス、ジョコビッチなどのビッグネームの試合は観戦できませんでしたが、結果的には好成績を取めた選手の試合を沢山見ることができました。

今回なぜこのような体験ができたかの種明かしは令和7年度会報に掲載させていただきますのでよろしくお願いします。

掲載期限 2025年10月末